

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

196号



2017年12月19日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 景観市民ネットの市民集会

12月9日(土)午後、狛江市泉の森会館で秀島一生さん(航空評論家)と那須りえさん(太田区議員)に講演してもらい、羽田増便に伴う都心低空飛行の新ルート案について勉強しました。

最近航空機からの落下物が続き、マスコミに取り上げられていることもあり、注目が集まりつつあるようです。元パイロットの人も参加していたので、現実感の伴った話が聞けました。

格安航空はどこで規制緩和をしているか等も話題になりました。目に見えない整備点検をカットしている場合は、命と安全のどちらを選ぶか、という大きな岐路に立つわけだということが解りました。

○ 頻繁な落下物の報道続く

「羽鳥慎一モーニングショー」に続いて、TBS「噂の東京マガジン」(12月3日)でもこの問題が特集されました。このところ、飛行機からの落下物が続いたせいか、問題視した報道が多くなりました。

日本の空がアメリカの植民地並みであること、横田空域の理不尽さなどにやっと目が覚めてきたのでしょうか。国会でも議員が質問をしていましたが、国交省側はいつもおざなりの答弁で、そのうえ野党の追及のしかたが下手なので何とももどかしい思いです。

12月15日(金)には国交省と議員有志の質疑の場が持たれたようでした。様々な場での愚策を撤回させようと様々な人が努力しています。諦めないことが大事です。

○ 常盤台の町並み展

11月23日(木)~28日(火)「ギャラリー一服部」で常盤台の簡単な街の歴史と、南宇都宮駅と折から改修中のときわ台駅についての展示を行いました。今までの展示内容と変わらない写真もありましたが、初めて見に来て下さった人や、引越して来られたばかりの人も何人か見えて、当初の目的は達成されたと思います。

資料館のない現在、できれば年に一度はこのような展示で、この街に住む誇りや責任感のようなものを共有できればと思います。

25日(土)午後は「南宇都宮駅とときわ台駅」というテーマで、宇都宮美術館学芸員の橋本さんのお話を伺いました。大谷石などの凝灰岩についても詳しく、大変興味深い内容でした。

○ 国交省の説明会

都心低空飛行問題について、国交省はステージ4という説明会を順次行っていますが、板橋区住民には以下が予定されています。

展示を中心とするオープンハウス型ではなく普通の説明会をするよう、以前から要請が多いのですが無視されています。

2018年2月17日(土) 11:00~16:00
板橋区向原、向原ホール

○ 縄文人はアイヌ人だった

最近の歯のDNA鑑定によれば、縄文人はアイヌ人に一番近く、次ぎに琉球人、次ぎ本土日本人の順だそうです。やはりアイヌ人が日本列島の先住民だったのですが、頑固なナショナリストは認めたくないかも知れません。

この人にインタビュ―(2)

― 中島淑夫さん ―

― 常盤台一、二丁目には景観重点地区として「景観ガイドライン」があり、全ての建築行為を行う際は、中島さんを理事長とする「しゅれ街協議会」と協議しなければなりません。何年前からの活動ですか

・ 十一年になります。この間約二六〇件の協議を行いました。

― どのような活動ですか

・ 実際には解体・分割・新築のそれぞれに協議が必要ですが、解体・分割についてはお知らせいただいた時に文書で済ませ、新築の前に協議するのが大部分です。

― 常盤台にはいつからお住まいですか

・ 小学校六年の時でした。ですから周囲に友達がいないくて、寂しい時期もありました。大学までずっと立教で、板橋立教の会の会長もしています。

― 常盤台住民に望むことは？

・ このガイドラインはアンケートの結果、八〇〇人あまりの方が賛成して成立したもののなのです。その後板橋区の方でも常盤台を区内で四力所ある景観重点地区の一つに選び、それぞれの景観基準で協議しています。二重手間になります。緑豊かで調和が取れた街並み」が皆さんの選んだ目標なので、最低敷地面積一三三m、接道面での緑化などをお願いしています。

― 他の良好な住宅地に比べ出遅れていた常盤台なので、これから頑張ってください。

言葉の幾つか(8)

― 忖度 ― 続編

前回、紙面が足りなかったもので、続きを書く、忖度する相手によって意味が変わるのではないかと思われまます。権力を持った相手の心を忖度するとおべっかやへつらいやゴマすり、なるし、弱い相手の心を忖度する場合は思いやりということになります。

日本人は昔から権力に媚びすぎることです。たとえばお歳暮やお中元は、日ごろお世話になっているお礼と称し目上や上司にあげる習慣です。弱者に向かって差し上げる人はいないので、すから、これは賄(まいない)と同じです。「お礼」という美名によって、媚びへつらう行為も緩和され、私たちの心も目隠しされているのではないでしようか。

そこに気がつけば、いかに日本人が権力へつらうのが好きか解るでしょう。

トランプ大統領に安倍さんが金のゴルフクラブを贈った際、イギリスの新聞は、トランプと仲良くするにはお世辞を使うことだ、と皮肉っていました。日本では大手メディアもどんな贈り物か興味津々に報道していましたが、批判する気配は全くありませんでした。

ジヨウビタキの来る庭

住宅地で見られる野鳥の中で、ジヨウビタキは珍しい方です。先日、「ギャラリ―服部」の庭で、一羽のきれいなジヨウビタキが三〇分も遊んでいたのに驚きました。

これからメジロがわずかな花の蜜を求めてやってきます。あのうるさいヒヨドリもです。

常盤台公園のはなづくり

チューリップの間に植えたビオラやパンジ―の苗に、唐力エデの落葉が降り積もっているのですが、防寒の役をするのではないかと、掃除するのをためらったり、やはり美観を損ねるからと、取り払ったりしています。

そのうちに落葉もすっかり済んで、枝ばかりの梢となり、地面は冷たい風雨にさらされる日々が続く、地下でチューリップが春をひたすら待っていることでしょう。

春夏の暖かい日々に見られた動物は、この季節、どうしているのかと思います。

ツバメはほとんど見かけなくなりましたが、たまに巣をかけているのも南に飛んで行ってしまいました。池の金魚を狙っていたゴイサギたちも、夏の夜飛び回っていたコウモリ達もどうしていることやら。

平和公園のカルガモは留鳥で渡り鳥ではないうえに、今では餌付けもおおっぴらになっているようで、四〇羽ほどもいるそうです。

一方、この季節ならではの心地よさもありません。すっかり防寒着を着た上で外に出ると、晴天の日は風は冷たくても快く感じられ、のどかなお正月ころの季節だな、と思います。小春日和を楽しみましょう。

大掃除や年賀状書きや正月の準備やらで、気ぜわしい年の瀬を送っていると思えますが、どなたも身体に気をつけて、良い年をお迎え下さい。